

論点整理表(たたき台)

テーマ: 地域の日本語教室と連携した行政・専門機関による初期日本語教育について

論点	①なぜ	②どのように	③だれが	④なにを	⑤いつ	⑥どこで
内容	<p>ボランティアの日本語教室がある中、なぜ初期日本語教育を考える必要があるのか</p> <p>ある程度日本語ができるようになれば、日本人と普通に話したり、生活の中で日本語を勉強することができる。しかし、最初を取っかかりである初期日本語教育は専門家でないとなし。</p> <p>なぜ初期日本語教育に地域で取り組むのか</p> <p>多文化共生社会をつくっていくには、地域で外国人をしっかりと受け入れる体制が必要である。そのために、地域の日本語教育をしっかりとやらないといけない。その認識をもう一歩進めようと思った時、初期日本語教育が大事である。</p> <p>なぜ初期日本語教育に専門機関が関わるのか</p> <p>初期日本語教育は専門性が高いことから、知識・情報の面で行政やボランティアだけでは限界がある。また、多くの日本語教育専門家が所属しており、育成している機関でもある。さらには、日本語教育を理解させ、認識してもらうためには専門機関の関わりが必須である。</p>	<p>初期日本語教育と地域の日本語教室はどう関わるのか</p> <p>初期日本語教育から地域の日本語教室への期待…初期日本語教育を受けた外国人の受け皿となり、日本語を使う実践の場として</p> <p>地域の日本語教室から初期日本語教育への期待…ボランティアが教えらるレベルにまで日本語力を身につけてもらえ、地域の日本語教室に通うきっかけとなる場として</p> <p>行政・専門機関はどう関わるのか</p> <p>専門機関…初期日本語教育の内容検討、初期日本語教育の必要性の周知、専門家・日本語教師等とのつなぎ、人材育成など</p> <p>行政…方向性の明示、普及啓発、関係者間の調整、</p>	<p>日本語教育専門家、日本語教育経験者</p> <p>どうしたら関わってもらえるようになるのか</p> <p>初期日本語教育のできる人材育成</p> <p>定年を迎える人、外国人など</p>	<p>初期日本語教育で目指す日本語とはどの程度のものか</p> <p>(話す・聞く・読む・書く)</p>	<p>いつ教えるのか</p>	<p>どこで教えるのか</p>

